

## 『英国王のスピーチ』 原題 The King's Speech 2010



© 2010 See-Saw Films. All rights reserved

### 映画批評

『英国王のスピーチ』 原題: The King's Speech 2010

～ ジョージ6世の吃音克服と奮起を描く

塚田三千代 (映画アナリスト)

©m.tsukada

当時58ヶ所の植民地と領土を治める大英帝国の国王が吃音症を抱えていた。この事だけでも問題の深刻さがうかがえる。この英国王こそ、即位60周年を迎えるエリザベス女王(Queen Elizabeth II)の父君(King George VI)である。この映画の主人公はジョージ6世とその家族、王妃と二人の皇女(Queen Elizabeth and two daughters)、そして、国王の吃音克服に徹底的に付き合う一平民の言語聴覚士 Lionel LOGUE である。

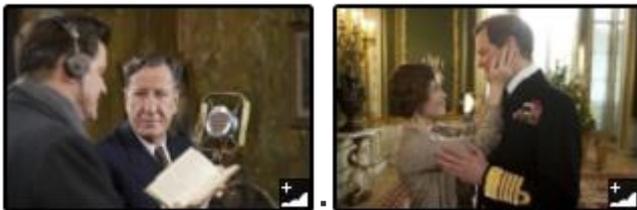
ジョージ6世は、ジョージ5世(1910~36)の次男、王位継承権は第二順位だった。

長兄エドワード8世(1936~, 12)の即位により国王になる機会は遠のいた。本人も海軍士官が自分に適していると家族ともどもホッとしていた。しかし、皮肉なことに父王は口には出さなかったが次男のガッツと力量に期待をかけ厳しく教育した。苦手なスピーチについても容赦しなかった。一方、「人間万事塞翁が馬」といおうか、兄は米国籍で2度の離婚歴のある愛人「シン普森夫人」との結婚を考え、“王冠を賭けた恋”とさわがれながら初志をつらぬきけっきょく退位に追い込まれた。ジョージ6世の誕生である。

まず作品の舞台背景を予備知識としてまとめてみた。皇位頭官が綺羅星のごとく登場するので全員に目配りすると本筋が見えなくなりかねない。本題は国王と言語聴覚士との交流、吃音矯正の難しさ、当事者の心理状態、達成感などである。リアルに演出される画面の流れに沿って鑑賞すれば十分楽しく、また新しい異文化発見につながる。

国王役のコリン・ファース(アカデミー主演男優賞)、エリザベス妃ヘレナ・ボナム＝カーター(アカデミー助演女優賞)、ライオネル・ローグの三人は受賞にふさわしい演技である。国王夫妻の平民と接するときの親しみやすく、ザックバランな態度。言語聴覚士ライオネル、オーストラリア人で無資格の身でありながら体験と実践を通じて会得した方法を臆せず国王に適用する。国王をバーティー(Bertie)、自分をライオネル(Lionel)と家族名で呼ばせた。吃音矯正トレーニングについては紆余曲折、考え方の相違で一時期お互い疎遠になることもあった。多くの障害を乗り越えたお互いの努力の結晶は\_\_\_\_。  
スピーチは\_\_\_\_。

本作品がエンターテイメントとしては秀逸であることに異論はなかろう。多くの情報をきめ細かく画面展開する脚本・演出は素晴らしい。興味津々、気楽に楽しめる。一方、英国国教会と国王との関係、第二次世界大戦への不安に揺れる王室・政府の動きなど、古くよき時代の英国をめぐる近代国際政治の裏舞台を学ぶ歴史教材としても使える。筆者は本作がなぜ作品賞として選ばれたのかを自問自答しながら鑑賞した。(2012.05.11@yyS)



## 映画のセリフ

王妃 Elizabeth のセリフの一部を紹介する。

Dear, dear man... I refused your first two marriage proposals, not because I didn't love you, but because I couldn't bear the royal cage. Could bear the idea of a life of tours and public duties, a life that no longer was really to be my own. Then I thought...he stammers so beautifully...they'll leave us alone. But if I must be Queen, I intend be a very good Queen. Queen to a very great King indeed.

## 【映画史リテラシー】

- 言語: 英語
- イギリス王室のしきたり、戴冠式
- 国王と言語聴覚士との交流、吃音矯正の難しさ、当事者の心理状態、達成感
- 登場人物

ジョージ6世(ジョージ5世の次男) : コリン・ファース

ライオネル・ローグ(オーストラリア人の言語聴覚士) : ジェフリー・ラッシュ

エリザベス(ジョージ6世の王妃) : ヘレナ・ボナム＝カーター

エドワード8世(ジョージ5世の長男、王位継承第1位、王冠を賭けた恋で王位を退く) : ガイ・ピアース

ウィンストン・チャーチル : テイモシー・スポール

ボールドウィン首相 : アンソニー・アンドリュース

ジョージ5世(エドワード8世とジョージ6世の父) : マイケル・ガンボン

●場所: パリ ロンドン スコットランド ルーブル美術館 エッフェル塔 サン・シュルピス教会 ウェストminster寺院(\*Sir Isaac Newton's tomb / the main keys to solve the Holy Grail's mystery.) ナショナルギャラリー キングズ・ガレッジ資料館 テンプル教会 ロスリン礼拝堂

●英国国教会と国王との関係、第二次世界大戦への不安に揺れる王室・政府の動きなど、古くよき時代の英国をめぐる近代国際政治の裏舞台を学ぶ歴史教材としても使える。

●「英国王のスピーチ 王室を救った男の記録」著者: マーク・ローグ (Mark Logue)/ピーター・コンラディ 訳: 安達まみ \*ローグの記録は2010年秋に The King's Speech: How One Man Saved the British Monarchy のタイトルで出版された。

◆Best Original Screenplay: The King's Speech. David Seidler.

© 2010 See-Saw Films. All rights reserved.。

## 【DVD の Chapter 別の内容紹介】

『英国王のスピーチ』のDVDの章は18のchapterに分けて収録されているので、chapterに付けられたタイトル名とシーンは下記のような内容である。

chap 1 「吃音というコンプレックス」

chap 2 「あらゆる治療への試み」

言語治療を受けているが、治療法がふさわしくない。

妻のエリザベスが、ジョンソン夫人の偽名で依頼にくる。

ヨーク公でも、診療はここで受け付けるという。

多言無用で、引き受ける。

chap 3 「家族との時間」

ライオネル・ローグ家の夕食時。

ヨーク公の家庭: 皇女にペンギンのお話を話す。

シェークスピアのオーディションを受ける。

chap 4 「型破りな治療法」

ライオネル・ローグ言語診療所のエレベータのドアから始まる。

ヨーク公と妃が訪れ、妃は外で待ち、ヨーク公とローグが対面で。  
呼び名 : はじめは highness, 慣れれば sir  
自分の症状は、stammer で、幼い頃の話をしに来たのではない。  
米国の最新録音機で声を録音する。音楽を BG にして声を録音。  
この方法は私に向かない。

#### chap 5 「厳格な父」

国王ジョージ5世。クリスマスの放送。  
1934 年、サンドリングラム・ハウス。  
いま我々に必要なのは— God bless for you.  
父国王から、特訓を受けている。兄デイウォリスッドを非難。  
兄に代わりお前が演説をする機会が増える、だから練習しろ。  
厳しい。to be or not to be,,,,うまく読めて録音されている。

#### chap 6 「ユニークなレッスン」

ライオネル・ローグを夫妻で訪問。治療を受ける。  
治療は毎日。mother manufacture king father

#### chap 7 「父の死と兄の即位」

グライダーで兄が到着。  
ウォリスと電話  
晩餐会。ジョージ5世の死。ウォリスと一緒になれないと泣くデイウォリスッド。  
ローグ家。マクベスを子供たちと演じるライオネル・ローグ。

#### chap 8 「友人との対話」

バーディが訪問。プラモデル。父、デイヴィッドとの子供の頃。  
幼少の矯正、乳母—食事 胃腸障害。ジョニー(13歳で死、癲癇)  
「私が始めて話す民間人」「オーストラリア人」

#### chap 9 「兄とウォリスの恋」

パルモラ城、スコットランド。  
車中で言葉を練習。腫瘍摘出 手術内容の守秘義務。  
シンプソン夫人、チャーチルと妃。  
デイヴィッドに反省してもらおうとするが、逆にやり込められて  
何も言えなくなってしまう。

#### chap 10 「ケンカ別れ」

ローグに告白する。  
怒りを爆発させつ、卑猥な言葉を連発させる。  
公園を散歩しながら、アドバイスして怒らせてします。  
反逆罪だぞ！

#### chap 11 「兄の退位」

首相官邸 タウニング街 10 番  
離婚歴 2 度のアメリカ人女性、  
英国国教会の酋長たる国王は既婚女性と結婚できません。  
首相官邸 タウニング街 10 番  
離婚歴 2 度のアメリカ人女性、  
英国国教会の酋長たる国王は既婚女性と結婚できません。

chap 12 「王位継承への不安」

王位継承評議会 セント・ジェームズ宮殿 1936 年 12 月 12 日  
ジョージ6世就任。  
自分は王でない、大きな間違いだ、と嘆く。慰める妻。

chap 13 「友との再会」

ローグ家。ジョージ 6 世と王妃が訪問。  
「王の謝罪を待つ者は長く待たなければならない」  
waiting for a king to appologize, one can wait rather a long wait.

\* 本シーンで、ライネルが守秘義務で家族に話していなかったことを始めて知り、彼を信頼する。

chap 14 「王たる声」

戴冠式の準備。ローグの戴冠式参列を大司教に認めさせる。  
ローグとジョージの対決。  
ドクターの資格はなくても自分の経験と知識と実績を語る。  
「王たる声がある。」because I have a voice.  
戴冠式の練習をする。以上、4回答えるだけ。Its easy.

chap 15 「忍び寄る戦争の影」

家族で戴冠式と国民への顔見世のビデオを見る。(白黒 TV)  
ヒトラーの演説シーンが続くのを、見る。  
言葉はわからないがスピーチがうまいね。  
緊急事態が発生:首相官邸から放送。  
後任首相:チャーチル 英国はドイツと戦争状態に入ります。

chap 16 「国民の求める王の言葉」

陛下の開戦スピーチの準備にローグが呼び出される。  
空襲警報  
ジョージ 6 世のスピーチ練習:  
歌曲、卑猥な言葉、ワルツなどの調子で練習  
チャーチルから励まされる。Good luck,sir. 私もマイクが怖い。

chap 17 「世紀のスピーチ」

「内装を変えたな」放送用スタジオ。

ローグの指揮に従ってスピーチする。

chap 18 「“真の王”誕生」

放送を終えて、拍手に迎えられて執務室で写真撮影。

well down. thank you. tthank you, raineru. (王妃)

バルコニーで国民の歓声に手を振る国王。

字幕:戦争のスピーチには\_\_\_\_\_

[映画情報]

第 83 回アカデミー賞では作品賞、監督賞、主演男優賞、脚本賞と主要な賞を受賞したのを手始めに、世界各地の映画賞、合わせて 63 個を得た。

コリン・ファース(アカデミー主演男優賞)、ヘレナ・ボナム＝カーター(アカデミー助演女優賞ノミネート)

監督: トム・フーパー

脚本: デヴィッド・サイドラー

撮影: ダニー・コーエン

製作国 イギリス／オーストラリア